



# 益子町【栃木県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年1月 ■ 人口：22,496人 ■ 面積：89km<sup>2</sup>  
■ 担当課：益子町教育委員会事務局生涯学習課（平成30年3月現在）



益子町の歴史文化の特性を4つ設定し、それぞれのテーマごとに歴史文化を活かした町づくりの方向性を示した。そして「守り育む、文化が薫る歴史と自然の里、ましこ」という基本理念のもと、将来像に向けて活かしていくこととした。また、関連文化財群と歴史文化保存活用区域を設け、文化財の有形無形、指定未指定を問わず、面的に保存活用につとめていく。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

古代窯跡群と古墳群、中近世の建築物と工芸、  
益子焼、手仕事文化、祭りと芸能

### 課題

- ・文化財の調査
- ・文化財個別の保存活用計画
- ・文化財の町づくりへの活用
- ・専門職員の不在

### 保存活用方針

- ・文化財の調査を計画的に実施
- ・文化財の現状を把握し維持管理
- ・文化財の普及啓発の充実
- ・活用のための仕組みや体制を整備

## 保存活用のための取り組み

### 歴史の里ましこ

益子の文化財は数多く、特に宇都宮氏、益子氏に関わる中世の文化財が集積している。そのため、益子の歴史上、重要な文化財について調査を行い、町民が楽しみながら、益子の文化財を知り学ぶための仕組みづくりを行う。文化財を観光等の素材として活用していく。



### 工芸・芸術の里ましこ

益子焼の歴史や民藝運動に関連した歴史文化遺産、益子ゆかりの芸術家の資産をより積極的に活用する。伝統的な工芸技術を映像等により記録保存していく。町のブランドイメージ確立のための各種イベントの開催や国内外へプロモーションを実施する。



### 祭りと芸能の里ましこ

継承されている祭りや芸能は地域の交流の要として重要な役割を果たしている。今後も継承していきけるよう、担い手となっている団体に対する支援を行う。また、民俗芸能の発表の場や機会創出を図っていく。祭礼や芸能を守り伝えるために必要な調査や記録も行う。



### みどりと土の里ましこ

自然と歴史文化の関わりを調査し、天然記念物および特徴的な自然植生、文化財周辺の景観等を保全する。見学ツアーや展示等で益子の自然と歴史文化の関わりについて紹介する。また、環境学習プログラム等を設ける。



## 関連文化財群



保存活用のための4つの取り組みから、最も益子らしさを表すテーマを「益子・手仕事の技（わざ）資産群」と設定し、4つの関連文化財群を設けた。益子町は益子焼をはじめとする「工芸の町」「手仕事の町」を、町の特徴として打ち出してきた。益子の歴史には、各時代に益子の歴史文化を特徴づける手仕事の技を伝える資産が存在する。これらの資産を関連文化財群として位置づけ保存・活用の方向性等を示した。

### ストーリー

- ① 益子・手仕事の囁 古代手仕事関連資産群
- ② 中近世の建築・工芸文化資産群
- ③ 益子焼と手仕事村構想関連資産群
- ④ 祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群

## 策定後の成果（見込まれる効果）

① 町のブランドイメージの創出  
歴史文化は町のアイデンティティそのものであり、町全体のブランドイメージづくりにつながる。そのため、町のPR活動や「土祭」のような益子を内外に発信するイベントの中に、歴史文化まちづくりのテーマを活かしていく方策について、今後、関係部局と協議していく。



② 区域ごとによる面的な保存活用  
歴史文化保存活用区域の文化財の調査および保存・活用に関わるものについては、文化財担当部局が主体となって行っていく。歴史文化保存活用区域の景観保全に関しては、景観形成に関する条例の制定等の具体的な方策について関係部局との連携を図る。



③ 体制整備による円滑な推進  
文化財に関わる施策を推進していくのに必要な専任職員を配置し、文化財担当部局が主体となって、国・県の支援を受けながら進めていく体制を整備する。今後、基本構想推進のための委員会を設置し、年度ごとの事業目標や進捗状況について報告を行い、指導・助言をいただくことを検討する。

